

壬辰歳 新春京都参拝レポート

西暦2012年 平成24年壬辰歳の新春京都参拝は、3日間の内容を無事に終えることができました。多くのご縁のあった参列者と共に、改めて日本の素晴らしさを実感できました。本レポートは、新しい時代の夜明けともいえる壬辰歳の新春参拝の内容をその価値と共に多くの方にお伝えするために作成いたしました。

日本人が本物の日本人の心根と姿を取り戻し、日本人としての民族の誇りを持って生きる時代が到来してきました。西洋の「ドラゴン」ではなく、日本の「たつ」の意味をしっかりと心に持って、立ち昇っていかねばなりません。このレポートを通じて、多くの心ある日本人の皆様と結ばれることを願っております。

夜明け

卯歳の晦日に東の地にて、来るべき新春参拝の盃が交わされました。その店には12月10日の満月の夜に、岡崎城・龍城神社にてご祈祷があげられた「龍神 繁盛注連縄」が飾られました。そしてその時に、ある品を頂きました。



銀座の寿司店に一瞬にして神棚が登場しました。実はこの神棚は、カウンターの席から真正面に見えるのです。著名人も多く出入りするお店ですから、この日から、カウンターに座ったお客様はすべてこの繁盛注連縄を拝むことになるのです。今後この寿司店はご最良のお客様によって支えられ発展していくでしょう。



この寿司店、最近ではテレビ番組にも登場し、芸能人のご最良になってきたのです。

この色紙に書いてある文字は、昨年大相撲を引退した立行司・木村庄之助の軍配に書かれている「冬則龍潜 夏則鳳挙」です。文字の位置と順が非常に重要です。しめ縄と同じで左に撚ることで力が湧いてきます。昇る龍（たつ）の姿です。そして、厳しい時に耐え忍び、時が到来すれば一気に昇る・・・たつの姿が目

浮かんできます。「たつの尻尾を捕まえなくては昇れない」ことを暗示しているかのようです。今年の新春京都参拝はここから始まりました。

予兆

今年も祇園・一力亭で、奇跡が起こりました。7日から3日間の京都参拝のために、最強の縁起を頂くための儀式でもあります。



一力亭の大石内蔵助の額のかかる座敷にて、箸紙替えです。この箸紙に大和古流友常先生が、今年実った稲穂を入れて頂きました。今から新春参拝のための宴が始まります。



この日松の内であるにもかかわらず、扇を忘れてしまった私でしたが、一力の若女将との会話の中で、「一力の扇」が出てきました。

めったに出ることのない、見た人も少ない、貴重な品です。この扇の裏には、しっかりと「宿の栄」が書いてあるのです。

今年は、一力でこの扇を手に入れることができたことが大きな奇跡です。私は感激で、その時何を食べたのかをほとんど覚えていないくらいです。新年の美味しい京料理を頂いたはずです・・・。



稲穂を付けている姿があまりにもよかったので、記念に掲載しておきます。この稲穂から数粒を千社札にくるんで、今年の大切なお守りの出来上がりです。

この一力の座敷で頂くお守りは最強で、明日からの参拝に力を頂けるのです。

そして、一力亭をでたあと、次々と昇り龍が目の前に出てくるのです。



今にも飛び出しそうな昇り龍です。しっかりと上を狙っています。この昇り龍の尻尾にしっかりとつかまり、昇って行くのです。

シャンパングラスも、注いだシャンパンが昇って行きます。昇り龍のシャンパングラスです。

明日の初日、龍神参りは妙心寺です。日本のたつに会い、どのような力を感じることができるのか・・・楽しみです。

1月7日 初めての龍神参り

龍神参りの始まりは「妙心寺」です。日本最大の禅寺であり、法堂には狩野探幽筆の雲龍図があります。

南門に集合し、妙心寺に入ると、あちらこちらに龍がいるではありませんか。一人で歩いていたら、ほとんど見過ごしてしまうのですが、実は多くの龍が隠されているようです。



私が一番印象に残っているのは、法堂の屋根にある龍(左)です。この龍は都の辰巳の方角を向いています。そして、鬼門の方角には、鬼瓦があり、五芒星がはっきりと見えるのです。邪気の入り込む

のを守り、良き龍の力で運を呼び込んでいるとのこと。

そして、いよいよ雲龍図との対面です。その前に・・・大方丈の襖絵が素晴らしかったのを付け加えておきます。

さて、この雲龍図ですが「昇り龍」か「降り龍」か。どちらに見えるか・・・確かに見る方向によって昇ったり、降ったり見えるのです。持って行った数珠を括りながら、真ん中の方に歩いていきました。するとどうでしょう・・・ここからはうまく説明ができません。自分で身を運び、素直な心で体験してみれば何かに気がつきます。私は・・・あることに気がつきました。以前見た時とは明らかに違うものに気がつきました。さて、参列者の皆さんはどんなことに気がついたのでしょうか。いずれにしても、龍(たつ)は見えないものの象徴であることには違いなく、しかし、狩野探幽は明らかにその見えないものの力を私たちに示してくれたんだということは、はっきりと判りました。そして、このような文化遺産を数百年経った今、目にできることは、辰歳を意識しているからだということもは

っきりしていることです。辰歳には「たつ」の力が必要である・・・これは大変重要なことです。

雲龍図を拝観した後、法堂の屋根を改めて見たら、これから3日間の京都参拝の意味と価値に気づくことができました。法堂の真横に立ち、鬼門から裏鬼門へと流れていく龍脈を意識できました。そして、辰巳の方角の伏見稲荷大社への思いもはっきりと見えました。稲穂を実らせる、稲穂に実を結ぶ力は、明らかに龍の力・・・なにか、今年辰歳の京都参拝は特別な意味がある予感がしてきたのです。

このあと、龍神参りはさらに続きますが、ここでの気づきがこの後の龍神参り、都七福神、伏見稲荷、十日えびすにすべてつながり、これからその結びの旅が始まる・・・つまり、辰歳はこの3日間のむすびの力によって、昇龍の力になる・・・ことに改めて気づくことができました。

辰歳の都七福神参り

前日の妙心寺の龍神参りで、昇龍の力に気がついたので、当然今年の都七福神参りは、



赤山禅院・福祿寿の参拝がその鍵になることは明確でした。初めての集合写真をこの地で撮ることができました。後ろの拝殿の屋根には、右手に御幣、左手にかぐら鈴を持った鬼門除けの猿が置かれています。

私は久しぶりにじっくりと赤山禅院を参拝することができました。屋根の上の猿もはっきりと拝見することができ、昨日から感じていた龍の力をあらためて感じました。不動明王様にも祈願し、この日一日の都七福神参りで参列者の皆さんに龍の力が宿ることを確信できました。

たん熊北店の新年会の奇跡

毎年、都七福神参りにて出来上がった「七福神色紙」は新年会の宴で完成します。新春にたん熊北店の座敷で宴をはることができるのも、毎年ながら幸運の何ものでもありません。そして、最高の縁起の京料理と銘酒「熊彦」をお腹の中に入れるのです。

この日最高の縁起は、祇園舞妓紗月さんの舞った「十日えびす」でした。十日えびすを舞うには笹が必要なのですが、この日は8日。だれも十日えびすの笹を持っていません。ところが・・・この日幸運にも臨時で参加できたYさんが笹をもっていたのです。急遽、この笹を舞に使えるように仕立て、見事、紗月さんの「十日えびす」が披露されました。店出ししたばかりの舞妓さんですから、新年に座敷で舞うのは初めてのことです。これから祇園の舞妓として大活躍が期待される舞妓の初舞台を見ることができるとは、まさに新年から縁起がいい・・・。そして、さらに圧巻は、紗月さんのお姐さん芸妓の紗矢佳さんの「七福神」の舞いです。今まで、この新年会では舞妓さんに「七福神」を舞ってもらって



いきましたが、芸妓さんの「七福神」がこんなにいいとは・・・私の目はそれ以降、紗矢佳さんに釘づけになりました(笑)。



そして・・・これがこの日完成した七福神の色紙の表(左)と裏(右)です。ちなみに、裏に貼ってあるお札「淵龍」は昨日の龍神参りにて完成した特別なお札です。平清盛公の背負った龍神様の力がここに籠っています。



そして、なにより、今回はこの千社札が重要です。君鶴さんの大丈夫・千社札です。上には五芒星が書かれています。この五芒星をよく見てください。何か違います。わかりますか？

昇龍の千社札になっているのです。この千社札は、今年の都七福神参りのために新しく出来上がったものです。デザインは大和古流当主 友常先生です。

ですから、この千社札が張られて

いる色紙は特別なのです。辰歳の都七福神参りはこのようにして昨日の龍神参りとしっかりと結びつきました。

辰巳の伏見稲荷大社正式参拝

9日は伏見稲荷大社の正式参拝です。大宮司様と面会ができ、素晴らしい四神の壺を拝見できたのはかけがえのない体験でした。7日の妙心寺での辰巳の方角の龍を思い出し、いよいよ運を引き寄せる龍神(たつかみ)様の力を宿すことになるのです。

拝殿での正式参拝のあと、お山をめぐる。熊鷹社にて、参拝をしたあと火打石で難を切り、福を招く参拝をしました。

今年の恵方は北微西です。参拝の後その恵方を眺めると、灯明が赤々と見えます。実は、この日伏見稲荷と一緒に参拝した先斗町の芸舞妓さんがあげた灯明です。はっきりと恵方の方向に見えます。そしてこの場所こそが、今年辰歳の誓いを立てる場所なのだということがわかりました。そして、この場所は龍神様の力を感じる場所です。立ち昇って行く龍をここから感じる事ができました。昨年とは全く違う参拝に驚きながらも、はっきりと今年の龍神の力を感じられることに感激しました。私たちが立って向いている方角は明らかに妙心寺の方角です。

京都文化サロンと十日えびす

破魔矢を手にし、これから「実を結ぶちから」を得る、京都文化サロンに向かいます。先斗町尽くしのこの日は、洋食が会場となりました。鴨川沿いのこの店は、北座と南座がよく見えます。京都文化サロンが始まるころから、見事な満月が冬の空に出始めました。これには、参列者も大いに驚きました。友常先生の特別講演が始まるとさらに大きくはつきりと満月が照らしています。まるで、この満月を見るためにこの店のこの席に来たかのようです。こんな奇跡的な出来事は、実力を越えています。明らかに見えない力が見方をしてくれているとしか考えられません。そして、宴が始まりました。先斗町の一番舞妓の



朋ゆきさんが正装をして登場です。その美しさに「息が止まった」参加者でした。

満月の夜は大いに盛り上がりました。昇り龍の力で、一気に上昇しているようです。そして、初日からの新春京都参拝のいよいよフィナーレに近いことも予感できるほどの盛り上がり方です。満月の夜・・・これは破格な力をもたらします・・・

二次会のバーでは、破魔矢に特別な稲穂と縁起がつけられました。先斗町の縁起をすべて引き寄せるかのようです。

「福が・・・舞い込む！舞い込む！」舞妓さんの勢いが増してきます。どんどん盛り上がってきました。

そして・・・これから最後の参拝、十日えびす・宵えびす参拝です。先斗町の芸舞妓さんと共に、総勢20名程の大行列です。えびす神社では、恵比寿三郎に願いをしっかりと届けることができました。芸舞妓のお姐さん方の力が何よりも必要なのです。なぜなら、恵比寿三郎は耳が遠いが、舞妓さんが大好き・・・だからなのです。舞妓さんと一緒にしっかりと自分の願いを伝えてきました。福笹を手に入れ、凱旋するように先斗町に戻ります。新しい年の始まりは、賑やかに、そして華々しく、勢いがなくてはなりません。満月が後押しをしてくれた夜、龍神さまの尻尾につかまって、明らかに昇って行くことができました。なぜなら、龍は月の使者だからです。

最後の龍神参り

3日間の新春京都参拝を終え、最後にしっかりと締め参拝を行いました。この3日間はすべて龍脈で結ばれていました。その龍脈をはっきりと自分の体の中に感じ取り、今年一年の誓いと、これから10年の躍進を祈願できたのです。

龍の眼を持ち続けること、そして昇龍に乗り続けるために見えない力を得ることをはっきりと自覚できました。「昇龍に乗り続ける・・・」この一番大切なことを最後の参拝で会得できたのです。

まとめ

多くの心ある日本人と、勢いを持ってこの日本文化を守り続けるために、多くの方と結ぶことが大切です。昇龍にのり、商売繁昌そして家運上昇・・・そして、その先にあるものをしっかりと見極めなければなりません。自分のことで精一杯では、昇り龍には乗れません。自分の目標だけでは、昇りつづけられません。昇っても降ってしまい、二度と昇れないようでは、意味がありません。

「商売繁昌のその先・・・」あなたは何を見ているのですか？龍神様に選ばれる理念を持ち、そして10年後のビジョンを持って生き抜くことが大切で、目先の損得ばかり見ては昇りつづけられません。

本当の力を得たいのであれば、しっかりと身を運び、時間をかけなければ何も得ることができないばかりか、大切なものさえも失うことになりかねません。いいとこ取り、つまみ食い、タダ乗り・便乗、横取りは日本の神様が最も嫌う行為です。正々堂々生きていくことが、運を引き寄せ、縁を結ぶことができるのです。一生に一回の人生の中で、今年の壬辰歳は60年間訪れません。是非この一回のチャンスを逃さぬようお勧めします。

皆様の今年一年の大躍進、大発展を心より祈念申し上げます。また、多くの参列された皆様、この度は誠にありがとうございました。

平成24年1月吉日
京都文化サロン 一步株式会社
代表 柴田虎心斎肇